

## 第5学年A組 社会科学習誘導案

教諭 三栗谷 渉

### 単元 日本の工業の今と未来

(本校教育課程 社会科単元 第9項 11月中旬～11月下旬 10時間)

#### 「単元の問題」を提起する根拠

##### ○ 子どもの興味・関心の実態

本学級の子どもは、教室の背面に掲示された「世界が認めた日本企業 (Best Japan Brands 2023)」を見て、「トヨタやホンダ、ニッサンなど、自動車を生産している企業がランキングの上位に入っているね。」「やっぱり日本は自動車づくりが盛んな国なんだね。」と話すなど、既習の自動車生産について振り返る姿が見られた。そのような子どもに、「自動車以外にどんな製品を作っている企業がありますか。」と尋ねると、「家電製品やスマートフォンなどを作っている企業が多いね。日本の得意分野なのかな。」「他にも、洋服や調味料、化粧品など、色々な種類の製品が作られているね。」と発言したり、知らなかった企業についてタブレット端末等で調べ、製品数の多さや最新機能に驚いたりするなど、我が国の工業の種類や国民生活との関連などへの関心が高まりつつある。

##### ○ 子どもの能力の実態

技能については、教科書や資料集などから必要な情報を読み取り、事実をまとめることはできるようになってきている。タブレット端末の活用については、少しずつ必要な情報を得るための検索の仕方やまとめ方などは身に付いてきているが、偶発的に出合った情報を十分に吟味・検討することなく、安易に受け入れてしまうなど、課題も見られる。思考力、判断力、表現力等については、これまでの学習を通して、資料等から読み取った複数の事実を比較しながら、その関係性について考える力は高まってきている。しかし、国民生活と関連付けながら社会的事象の意味について考える力には差が見られる。また、問題を解決するために様々な視点から多角的に考えたり、他者の考えや学び方を自分の学びに生かしたりするなど、粘り強さや自己調整力は十分とは言えない。

##### ○ 社会からの要求

我が国は、職人の優れた技術によって質の高い製品を生み出し、「ものづくり大国」として発展を遂げてきた。現代においても、日本製品に対する世界からの信頼は厚い。しかし、2023年版「ものづくり白書」によると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やロシアによるウクライナ侵攻など、予測困難な事象が相次いで発生したことによって、生産拠点の変更や原材料・エネルギー価格高騰への対応が必要になるなど、近年、我が国の工業を取り巻く環境は大きく変化している。また、少子高齢化による労働人口の減少や競争力の低下といった国内の課題に加え、脱炭素の実現に向けた世界的な気運の高まりなど、国内外の様々なニーズや課題への対応も求められている。このような現代社会において、我が国の工業生産の特色を捉えるとともに、国民生活に果たす役割や今後の発展について学ぶことは、我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民を育てる上で意義深いと考える。

##### ○ 教科系統上の要求

本学級の子どもは、第3学年では、地域に見られる生産の仕事が人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを学んでいる。第4学年では、地場産業の盛んな地域のまちづくりについて学び、人々の協力によって県内の産業の発展がなされていることを捉えている。第5学年では、我が国の工業生産の概要を捉えるとともに、工業製品が国民生活の向上に重要な役割を果たしていること、今後の工業の発展などについて学ぶ。このことは、第5学年の我が国の産業と情報との関わりについての学習や中学校社会科地理的分野「C(2)日本の地域的特色と地域区分③資源・エネルギーと産業」や「C(3)日本の諸地域③産業を中核とした考察の仕方」の学習へと発展していく。

#### 単元の問題

日本の工業には、どのような特色があり、これからどうなっていくのだろう。

- 日本では、どこで、どのような工業が盛んに行われているのだろう。
- 日本の工業には、どのような生産の特色があるのだろう。
- 日本の工業がさらに発展していくには、どのようなものづくりが大切なのだろう。

## 目 標

### <知識及び技能>

- 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解することができる。
- 教科書やタブレット端末、統計等を活用して必要な情報を収集し、我が国の工業生産の特色や今後の発展を目指した取組などについて調べ、まとめることができる。

### <思考力、判断力、表現力等>

- 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産が国民生活に果たす役割について、工業製品と国民生活を関連付けて考え、表現することができる。

### <学びに向かう力、人間性等>

- 我が国の工業生産の特色や国民生活に果たす役割について関心をもち、工業生産の特色や今後の発展に向けた取組などについて進んで調べ、粘り強く学習の問題を解決しようとする。

## 誘 導 の 着 眼

### 【着眼1】 自分らしい追究を支える働きかけ

#### (1) 実社会で活躍する人々の営みに迫る学習材と出合わせ方の工夫

子どもの追究意欲を高め、自分らしく問題の解決に向かうことができるように、学習材「北九州市のものづくり（アステック入江と小倉縞縞）」を開発し、以下のような出合わせ方の工夫を講じる。

学習材（選択・決定する対象）	出合わせ方の工夫
<p>【北九州市のものづくり（アステック入江と小倉縞縞）】 学習材としての価値は以下の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在苦境に立たされている金属工業や繊維工業でありながら、市や国から未来を担う企業として認定されていることに驚きを感じる。</li> <li>○ 消費者や社会のニーズを踏まえ、高い技術や独自の強みを生かしたものづくりの実際が見える。</li> <li>○ 今後の工業の在り方や発展を考えるきっかけとなる取組に挑戦している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2021年の世界体操が北九州市で開催され、その大会のメダルを地元企業である「アステック入江」と「小倉縞縞」が協力して製作した事実を伝える。</li> <li>○ 本物の金メダルに触れ、その質の高さを体感する場を設定する。</li> <li>○ 金メダルの原料が廃棄される電子基板や海に漂着したプラスチックごみである事実を提示する。</li> </ul>

#### (2) 自己の選択・決定に基づいて追究する活動の設定と形成的評価を生かした支援

子どもが、自己の選択・決定に基づいて自分なりの解を導くことができるように、ふり返りを分析したり、個の問題解決の状況を見取ったりして評価し、それを生かした支援を以下のように行う。

分析・見取りの視点	具体的な支援（○自力解決可能な子ども、△支援を要する子ども）
選択・決定した対象について適切に情報を集められているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報のまとめ方への助言，他者とのかかわりを促す声かけ</li> <li>△ より精選した資料の提示，根拠の問い返し</li> </ul>

### 【着眼2】 考えを発展させる学び合いへの支援

多様な他者とのかかわりを通して社会的事象についての認識を深めることができるように、以下のような学び合いに関わる手立てを講じる。

手立て	具体的な支援
考えの可視化・共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICTを活用した個の考えの可視化</li> <li>○ 事実の共有と根拠をより明確にする学び合いの設定</li> </ul>
新たな事象提示 問いの焦点化 話し合い活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市や国の職員、同業者が頻繁に見学を訪れる事実を確認した後、最近では自動車工場の人を訪れることが増えた事実を提示し、子どものつぶやきを基に、「なぜ、わざわざ自動車工場の人金属のリサイクル工場に来ているのだろう。」とさらに考え合う問いへと焦点化する。</li> <li>○ 「どのように自動車生産に生かされるのかな。」「どんな課題の解決につながるのかな。」などと見方・考え方の働きを促す声かけをする。</li> </ul>
考えの再構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たに得た視点や情報を総合して考えを再構成する活動を設定する。</li> </ul>

展開計画（総時間数 10 時間）

	主な学習活動	教師のねらいとその手立て	評価の規準と観点
見 い だ す	1 身の回りの工業製品の分類をしたり、工業生産額の変化について話し合ったりして、学習問題をつくる。 1	○ 工業生産と生活とのつながりに関心をもつことができるように、身近なホームセンターのちらしに掲載されている製品を分類する活動を設定する。 ○ 日本の工業への問題意識を高めることができるように、工業生産額の変化等を示したグラフを提示したり、既習の食料生産の学びをふり返る活動を設定したりする。	○ 日本の工業の特色や今後の発展について関心をもち、学習問題を見いだしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	<b>中心問題 日本の工業には、どのような特色があり、これからどうなっていくのだろう。</b>		
挑 む ・ ま と め る	分析問題 1 日本では、どこで、どのような工業が盛んに行われているのだろう。		
	2 工業の盛んな地域を調べ、工業が盛んな地域の条件について話し合う。 2	○ 交通の発達と工業の発展をつなげて考えることができるように、工業が盛んな内陸地域の事例を提示する。	○ 国土には工業の盛んな地域が広がっていることを捉えている。 (知識・技能)
	分析問題 2 日本の工業には、どのような生産の特色があるのだろう。		
	3 工場の規模による生産の違いについて考えたり、北九州市の工業生産を事例として、日本の工業の特色や国民生活に果たす役割について話し合ったりする。 3 (1) 大工場と中小工場の違いや特色 (2) 北九州市のものづくり	○ 工場の規模による生産の違いや特色を捉えることができるように、工場の規模による工場数や働く人の数などを提示し、比較しながら考える場を設定する。 ○ 追究意欲を高め、自分らしく問題の解決に向かえるように、学習材「北九州市のものづくり（アステック入江と小倉縞縞）」を開発し、出合わせ方の工夫を講じる。 ○ 選択・決定に基づいて自分なりの解を導くことができるように、ふり返りを分析したり、個の問題解決の状況を見取ったりして評価し、それを生かした支援を行う。	○ 工場の規模による生産の違いや日本の工業を支える中小工場のものづくりについて調べ、まとめている。 (知識・技能) ○ 北九州市のものづくりを基に、日本の工業の特色や国民生活に果たす役割を考え、表現している。 (思考・判断・表現)
ふ り 返 る ・ い か す	4 日本の工業が抱える様々な課題について話し合う。 1	○ 新たな問いを見いだすことができるように、社会に見られる課題を示す資料を提示する。	○ 日本の工業の今後の発展について問題意識を高めている。 (主体的に学習に取り組む態度)
	<b>分析問題 3 日本の工業がさらに発展していくには、どのようなものづくりが大切なのだろう。</b>		
	5 今後の日本の工業の在り方や発展について考える。 ＜本時 2 / 3＞ 3 (1) 考えをつくる。 (2) 話し合う。 (3) 単元を通じた自己の学びや成長をふり返る。	○ 今後の日本の工業の在り方や発展について新たな視点を付加することができるように、近年、自動車工場の人が見学に訪れることが増えた事実を提示し、「なぜ、わざわざ自動車工場の人がりサイクル工場に来ているのだろう。」とさらに考え合う問いへと焦点化し、話し合う活動を設定する。その際、「どのように自動車生産に生かされるのかな。」「どんな課題の解決につながるのかな。」などと見方・考え方の働きを促す声かけをする。	○ 今後の日本の工業の在り方や発展について、国民生活の向上や社会に見られる課題の解決と関連付けながら考えている。 (思考・判断・表現) ○ 日本の工業の今後の発展に関心をもち続けようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

(1) 主眼

これまでの学びを根拠に今後の発展のために大切にすべきものづくりの視点について話し合ったり、アステック入江の小森さんの話を基に自分の考えを再構成したりする活動を通して、今後の日本の工業の在り方や発展について、国民生活の向上や社会に見られる課題の解決と関連付けながら考えることができるようにする。







(2) 本時における学びを愉しむ子どもの姿

今後の発展のために大切にすべきものづくりの視点について、友達と意見を交わしたり、工業の現場で活躍するアステック入江の小森さんの話を聞いたりして、日本の工業の在り方や発展についての自分の考えを広げたり、深めたりする姿。 【かかわる, つくる】

(3) 準備

学びの足あと、既習の工業生産に関する資料、アステック入江の小森さんの話(動画資料)

(4) 展開

学習活動と子どもの意識	誘導上の留意点(○)と評価(※)
<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>工業にも様々な課題があったよ。これからどんなものづくりが大切なのかな。</p> 	<p>○ 本時の学習への意欲を高めることができるように、前時までの学習をふり返り、見いだした問いを確かめる場を設ける。</p>
<p>日本の工業がさらに発展していくには、どのようなものづくりが大切なのだろう。</p>	
<p>2 考えたことを基に、今後の日本の工業の在り方や発展について話し合う。</p>	<p>○ 多様な考えに触れ、考えを確かにしたり、広げ深めたりすることができるように、ICTを活用して個の考えを可視化したり、前時までにつくった自分の考えを交流する活動を設定したりする。 【着眼2】</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ぼくは、「最新の技術や機械の有効活用」が必要だと思います。アステック入江や小倉綿縮が最新のAIや機械を使うことで、効率よく質の高い製品をつくっていました。工業の少子高齢化にも対応できると思います。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>私はやっぱり「環境や人にやさしい」ものづくりだと思います。食料生産にも必要な視点だったし、SDGsを実現する上で欠かせない視点だと思います。アステック入江の技術があれば日本が世界をリードできると思います。</p>  </div> </div> <p>「日本の伝統を生かす」ことが必要だと思います。小倉織が世界で高い評価を得ているし、日本には他にも優れた伝統工芸があるので、それらの生産に力を入れて、競争力を高めていけばよいと思います。</p> 	
<p>3 今後の日本の工業の在り方や発展について考えを再構成し、伝え合う。</p> <p>わたしたちの工場には、国や市の職員、同じリサイクル業者などが頻繁に見学に来ますが、最近少し変化が現れています。それは、自動車工場の人が見学に来るようになったことです。製造の人たちは、お客様を一番に考えているので、リサイクル工場にまで来ることはまずありませんでした。これは、これからのものづくりの在り方が変化しようとしている現れだと思います。</p>  <p>自動車工場の人が見学に来る理由は、リサイクルした金属を自動車の原料にしようとしているからだと考えました。それが実現すれば、今の社会にあるものだけでずっと生産を続けていくことができることとなります。これが本当の持続可能な社会だと思います。</p> 	<p>○ 今後の日本の工業の在り方や発展について新たな視点を付加することができるように、近年、自動車工場の人が見学に訪れることが増えた事実を提示し、「なぜ、わざわざ自動車工場の人が見学に来ているのだろう。」とさらに考え合う問いへと焦点化し、話し合う活動を設定する。その際、「どのように自動車生産に生かされるのかな。」「どんな課題の解決につながるのかな。」など見方・考え方の働きを促す声かけをする。 【着眼2】</p> <p>※ 今後の日本の工業の在り方や発展について、国民生活の向上や社会に見られる課題の解決と関連付けながら考えている。</p> <p>○ 日本の工業の在り方や発展についての自分の考えを広げたり、深めたりすることができるように、新たに得た視点や情報を総合して考えを再構成する活動を設定する。 【着眼2】</p>
<p>4 本時の学習をふり返る。</p>	<p>○ 自己の認識の深まりを実感することができるように、「自分の変化や成長」という視点でふり返る活動を設定する。 【着眼1】</p>